

団長の独り言

6月24日(土)「テンポ命！」

劇団ふぁんハウスのお芝居は、舞台に向かつて右側(上手側)半分が、15センチから45センチほど高くなった舞台セットが多い。

それは私が脚本を描く際に、そういう舞台セットを想定して描いていて、その構想を舞台美術さんをお願いしているからなんだけどねえ。

でもここ最近の新作では、ワンパターンの舞台セットにならないようにしようって心掛けてはいる。

ただほら、今回のように再演の作品だと、前作を踏襲してしまい、上手が高い舞台セットになってしまう。

お金のある劇団や団体ならば、稽古の段階から平台という台や箱馬という箱型の足で仮設の台を創って稽古をするものなんだけど、劇団ふぁんハウスでは、自前の平台や箱馬なんて持っていないし、もちろん自前の稽古場もないので、普段、稽古を行う際は、農家の方が収穫した野菜等を入れるために使うケース(ビールケースくらい大きさ)数個を裏返しにして、

「台の縁に腰掛ける芝居」では、箱の上に座り、「台の奥に上がり込んで座る芝居」では、箱を乗り越えて地べたに腰掛けるって感じで稽古をしている。

ただ正直、これだと本番通りの動きが来ないので、稽古中は皆の想像力で「台があるつもり」って事にして、各自がそれなりの動きで凌いでいる。

しかし、この日稽古を行った施設には、大きさが卓球台ほどで、高さが45センチ程度の折り畳み式の台が2台、備品として備わっておりまして、その台が劇団ふぁんハウスの際には、上手側の「高い舞台」にピッタリなので、こちらの施設での稽古の時は、必ずこの2台の台をお借りして、仮設舞台セットを組み、稽古を行っているのだ。

本来の用途は、ホールのような広い部屋で何かのイベントを行う際、ステージとして用いるための台なんだそうだが、事前に申請をすれば、台をお借りする事が出来る。

毎回、この施設でこの部屋を借りる事が出来れば、最高の環境で稽古が出来のだが、こちらの部屋を利用する場合、部屋の広さや音の問題等から、2部屋ぶち抜きでお借りする事となり、当然ながら2部屋分の利用料が発生するため、毎回だと、予算的にかなり厳しくなる。まあそれもあることながら、2部屋分を昼夜ぶつ通しでお借りするには、予約自体がなかなか難しのだが…。

まっ！それらの諸事情により、この場所が稽古が行えるのは、めちゃめちゃ貴重。

そこで時間を有効に使い、無駄のない稽古を行うべく、テキパキと全員で仮設舞台を創り、「ちゃんとした台」のある中でまずは「通し稽古」を行った。

通し稽古というのは、役者陣は全員本番どおりの衣裳を身に纏い、本番通りに演じる稽古の事で、どんなに芝居が崩れようが役者のセリフが出てこなくなるうが本番だと思って芝居を止めずに、きっちりと言う、最終調整的な稽古なので、皆の気合の入り方はいつも以上。

「台」のある舞台セット感触を確かめながら、皆さんかなり活き活きと演じていた。全体的には、一見ちゃんとした風の通し稽古だったけれど、細かくチェックしていくと、ダメを出したくなる箇所がいくつもあった。

演出席に座る私は、「ダメな箇所」がある度にダメ出しノートに書き込み、その中でも「再稽古が必要」箇所には、赤色のペンで大きく丸印を付けて、夜の部の稽古で、「ダメな箇所」を徹底的に行うというのが昼夜稽古になってからの大きなスケジュールなんだけど、ただこの日の通し稽古では、1幕のタイムが前回の赤坂公演の時のベストタイムよりも、5分以上も長くかかってしまい、細かなダメ出し以前の問題に頭を抱える。

2幕ならばシーンを追加したから、前回の赤坂公演よりも数分延びるのはある程度想定内だけど、1幕は脚本上は全

く変わっていないし、役者のトチリ等で芝居が止まったってわけでもない…それなのに、5分以上も芝居が延びるといのは、それだけ役者の芝居が間延びしまくっていったってこと。

演じている個々の役者は間延びしているって自覚は意外となくて、みんなが少しずつ余計な間を取っているがために、芝居全体が延びてしまったのだ。

この間延びした芝居って、演じている役者の誰も気が付かないと次から次へと伝染してしまうもの。

ここで出番の多い役者達が「全体的に間延びしている」って気が付き、テンポを上げれば、自然とテンポもいい感じに戻るのだが、ちょっと慣れてきた通し稽古の時って皆さんタップリやりたがるからねえ。その余計な「間」が、結果としてダレた芝居になってしまっていた。

そこで1時間の休憩後の夜稽古では、「何がなんでもテンポアップ」って事に各自が重点き、1幕のみ通してみました。おおく！！！！5分も縮まりましたよ。テンポのいい芝居だと、当然ながら、お芝居に引き込まれる。

逆にテンポの悪い芝居だと、同じ役者で同じ脚本の芝居でも眠くなってしまふ。

残り僅かな稽古期間、「テンポよく！」

を最重要課題として、本番では、最高の芝居をお届け出来るように、

本気で！一生懸命、努力しましょうね。